

千曲川・橋梁の今昔 その4

大正橋

大正橋の歴史は戸倉上山田温泉の歴史とともにあります。源泉が千曲川の河原にあったこの温泉は、大正橋と同様に幾多の洪水被害に遭い、先人たちはそのたびに復旧、復興を経験、苦難の道を歩んできました。温泉と地域の発展の礎となった大正橋。現橋は、旧橋のイメージを受け継ぐデザインで、温泉情緒と風情を感じさせる「大正ロマン」がテーマです。美しい景観と旅愁を誘う大正橋は、地域の基幹橋梁として今日も県内外から観光客を迎えています。



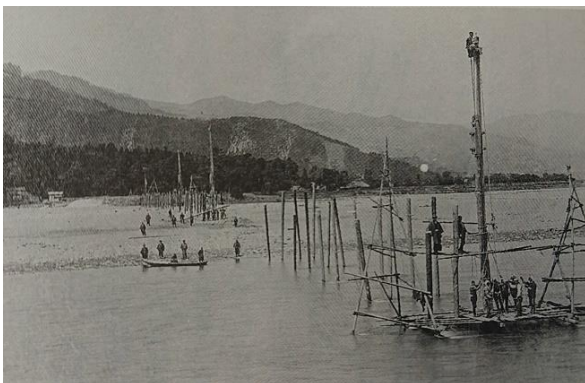
ガス灯をイメージした大正橋の親柱（左岸）

千曲建設事務所が管理する7橋梁を紹介するシリーズ。第4回は大正橋です。

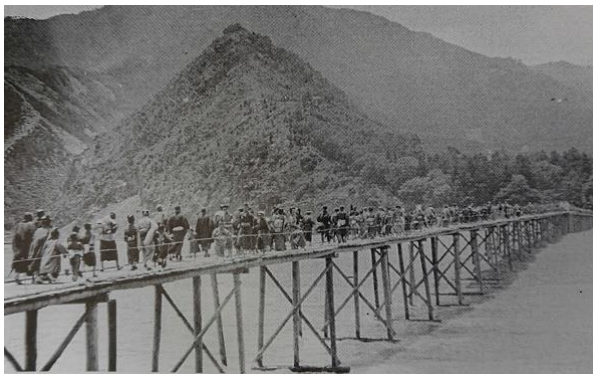
1 橋梁データ

路線名 (場所)		主要地方道 大町麻績インター千曲線 (左岸 千曲市若宮 右岸 千曲市戸倉)
現橋	完成年月	平成14年(2002年)10月
	橋長・幅員	橋長345.0m・幅員14.0m
	構造	6径間連続PC箱桁橋
旧橋	最初の橋の完成年	明治24年(1891年) 橋名は「二郡橋」
	増設年橋長・幅員	大正3年(1914年) 昭和6年(1931年) 橋長352.5m・幅員5.5m
	備考	昭和43年(1968年) 歩道設置

2 木橋の完成



↑大正橋建設工事(大正3年)(戸倉町誌第三巻歴史編下)



↑大正橋の渡り初め(大正3年)「科野のいしぶみ五十周年記念誌」長野県建設業協会更埴支部

江戸時代から明治の初期にかけて「若宮渡」と呼ばれていた地点に、初めて橋が架けられたのは明治24年(1891年)2月。更級郡上山田村と埴科郡戸倉村の間に、両岸四カ村の組合が木橋を架橋、「二郡橋」と言われました。橋賃(通行料)5厘*の有料橋として利用されていましたが、明治31年(1898年)9月の洪水で流失し、交通手段は渡船に戻りました。

現在の大正橋の前身である木橋は、戸倉駅と戸倉、上山田温泉を結ぶため、大正橋株式会社が、大正3年(1914年)6月に架設したものです。通行料は1人1銭*、人力車・荷車1台2銭。渡り初めの日、竣工を祝って無料開放となったため、大勢の人が歓声を上げて新しい橋板を踏みしめました。

若宮と戸倉両地区の交流が自由にできるようになり、大正11年(1922年)には千曲川堤防改修工事が竣工。洪水の被害から解放され、大正橋は県道に編入されて無料となりました。

(※ 一説だと現在の貨幣価値で1銭=千円程度、5厘=500円程度(様々な算出方法があり幅がある))

3 木橋から鉄筋コンクリート橋へ



大正橋の渡り初め(昭和6年)「科野のいしぶみ五十周年記念誌」
長野県建設業協会更埴支部

永久的にして且つ時代に順応したる本橋の雄姿を現出したるは、独り当地域の幸福たるに止まらず、内外より来遊する浴客の不安を去り、両温泉開発に資する所多かるべく、誠に慶賀に堪えざる所なり。」(抜粋)(戸倉町誌第三巻歴史編下)

この橋は、桁の下面が浅いアーチを描くわが国最初のカンチレバー式(ゲルバー式鉄筋コンクリート橋)で、温泉発展の礎となりました。昭和41年(1966年)に万葉橋が架設されるまでは、温泉へ行くには戸倉の駅からこの長い橋を渡るのが通常の行程でした。

交通量が増加し、大型車両の通過も頻繁になったことから、歩行者の安全のため昭和43年(1968年)、下流側に歩道専用の橋が架設されました。

県では昭和5年(1930年)9月、臨時議会において失業救済土木事業の一つとして大正橋の架橋が承認され、下流の千曲橋と同時に建設工事が行われました。工事費のうち、戸倉村、上山田村、更級村、五加村及び上山田温泉、戸倉温泉が地元寄附金を負担し、地域の人々の期待を背負って昭和6年(1931年)1月に着工、12月に竣工しました。

竣工式に出席した当時の県議会議長は、祝辞を次のとおり述べています。「今や新橋は茲に



旧大正橋と赤い高欄の歩道(右側)(昭和41年)

4 現在の大正橋

現在の橋は、平成8年(1996年)に着工、平成14年(2002年)10月完成しました。上部工は6径間連続PC箱桁橋で、橋脚と柱頭部を施工後、柱頭部に組み立てたワーゲン(移動式作業車)を用いて、やじろべえのように2~4mずつ左右のバランスを取りながら橋桁を順次打ち足していく架設工法「片持ち張出し架設工法(カンチレバー工法)」が採用されました。この工法はドイツで導入され、その後地形の複雑な日本で発展し、河川や海上、溪谷に架かる長大橋の建設に多く採用されています。



橋脚上に施工された柱頭部(平成12年)



ワーゲンにより柱頭部から両側へ張出し施工部を伸ばし、隣の柱頭部からの張出し施工部と連結させる。(平成13年)



現橋は景観に配慮した設計が採用され、桁の下面が緩やかな弧を描く旧橋のデザインを受け継ぐとともに、ガス灯をイメージした親柱や橋灯など、大正時代の雰囲気を感じさせています。特に、高欄には昭和4年（1929年）に画家竹久夢二が滞在した際に描いた美人画が中山晋平（1887年中野市生まれ）作曲の「千曲小唄」の歌詞とともに挿絵としてはめ込まれており、温泉情緒を感じさせます。また、歩道には小石（恋し）の湯伝説※にちなんで、「赤い小石」が99個埋め込まれています。（※ 小石（恋し）の湯伝説 以下のコラム参照）



↑ 架設工事が大詰め。舗装工事を控えた秋の一日、路面アートやミニコンサートなど様々なイベントが行われた。（平成14年9月）



← 竹久夢二の美人画がはめ込まれた高欄。千曲川小唄など4カ所作られている。

→ 開通間近となった大正橋（平成14年）



大正橋と合わせて街路が整備された戸倉地区では、平成16年（2004年）8月、千曲市の住民有志でつくる道路アダプト団体「水上布奈山街並みの会」による大正橋東詰街路植樹祭・歌碑の除幕式が行われました。

植樹祭に先立って、歩道、植樹帯の美化清掃活動を盛り込んだ信州ふるさとの道ふれあい事業（アダプトシステム）協定書に会代表者、千曲市長、県千曲建設事務所長が署名。会の皆さんは今も活発に活動されています。



大正橋東詰街路植樹祭の様子。（平成16年8月）



今の大正橋。右岸東詰から。右側が下流（長野方面）

小石（恋し）の湯伝説

むかし、千曲川の岸にお政という美しい娘がいました。ある日江戸からの長旅の途中で病に伏せる米吉を救ってやりました。

やがて二人は恋仲となり、祝言を上げ、仲睦まじく暮らしていました。ある日、米吉が江戸に出たまま行方知れずとなってしまいました。

夢枕の観音様から、「米吉を救いたくば、千曲川原で赤い小石を百個集めて奉納しなさい」とのお告げを受けたお政は、来る日も来る日も赤い石を探しました。

身も凍る冬の日、こんこんと湯が湧き出る不思議な場所から、輝くような百個目の赤い小石を見付けました。そうそうに観音様に奉納すると、ほどなく米吉は無事に戻ったということです。

この話を聞いた村人たちは、この湯を「小石（恋し）の湯」と名付けました。これは戸倉・上山田温泉の昔の湯のことです。



(大正橋案内板「恋しの湯伝説」から要約)

5 戸倉上山田温泉の歴史概観

この地域の温泉の発見は、慶応4年（明治元年）～明治初頭、上山田村字下河原や戸倉の八王子山南麓の若宮、下戸倉、上山田三か村の境界地付近の千曲河原と言われています。戸倉温泉では、明治9年（1876年）、地元資本家により、源泉の掘削が始まりましたが、洪水で源泉が埋没。その後も有力者や戸倉区会が温泉開発に関わりました。

その後もたび重なる洪水で温泉が流失。河川がからむ温泉開発は、常に洪水の脅威にさらされ、加えて国、県の治水政策、河川管理、隣村との境界問題、温泉の利権問題、掘削や復旧に掛かる資金の調達などで困難を極め、苦難の歴史をたどりました。

明治26年（1893年）4月、坂井量之助が戸倉村字向島に戸倉温泉を開発、整備が進み、開湯式が行われました。

上山田温泉「かめ乃湯」掘削の成功は、明治36年（1903年）。同年、上山田温泉の開湯式典が行われました。明治40年（1907年）には上山田温泉株式会社が創立。温泉資源の保護を図りながら旅館、ホテル等に配湯し、温泉の発展に尽くしています。

大正3年（1914年）に大正橋が架設となり、戸倉、上山田温泉は安全な温泉地として定着しました。また、堤防工事、道路舗装など当時の土木工事が地域の安全と温泉の発展に貢献してきました。

昭和30年（1955年）新しい戸倉町、上山田町が誕生。両町は温泉地の振興策を町政の柱の一つとして取り組み、この頃から両温泉は名前を「戸倉上山田温泉」と統一して宣伝活動などを行うようになりました。



(上) 大正時代の戸倉温泉

(下) 大正時代の戸倉獅子鼻付近

いずれも「科野のいしぶみ五十周年記念誌」
長野県建設業協会更埴支部

○ 戸倉上山田温泉の主な歴史

慶応 4	1868	上山田村農民 若林才兵衛が字下河原の千曲川河原で温泉を発見
明治初頭	1870 頃	戸倉温泉発見 八王子山南麓の若宮、下戸倉、上山田三か村の境付近
8	1875	<u>戸倉～若宮間に船橋完成</u>
24	1891	「更級・上山田・五加・戸倉四カ村組合」が木橋を架設
26	1893	坂井量之助が字向島の河原で戸倉温泉開場。温泉場洪水被害大
27	1894	千曲川大洪水で戸倉温泉場被害
29	1896	千曲川大洪水
31	1898	千曲川洪水により戸倉温泉流失
35	1902	温泉創設委員（上山田）が掘削成功。戸倉温泉は千曲川右岸へ送湯
36	1903	温泉掘削成功「かめ乃湯」と命名。上山田温泉開場
39	1906	千曲川洪水、居住者転出多い
40	1907	上山田温泉株式会社設立
41	1908	千曲川洪水被害大。43年、44年、大正2年にも洪水被害
大正 3	1914	<u>千曲川護岸工事完成。大正橋（木橋）竣工</u>
4	1915	上山田温泉組合創立
5	1916	戸倉温泉が向島に再移転（千曲川左岸）
6	1917	千曲川大洪水被害大
11	1922	千曲川堤防改修工事竣工
昭和元	1926	<u>戸倉駅～上山田温泉県道舗装</u>
6	1931	<u>大正橋（旧橋）竣工</u>
8	1933	八王子温泉開湯
30	1955	戸倉町誕生（戸倉町、更級村合併（4/1）、五加村一部合併（7/1）） 上山田町誕生（上山田町、力石村合併）
34	1959	伊勢湾台風被害大
41	1966	<u>万葉橋竣工</u>
平成 10	1998	長野冬季オリンピック開催、温泉街賑わう
14	2002	<u>大正橋（現橋）竣工</u>

資料「上山田温泉株式会社創立百周年記念誌—いのちあたたまる温泉—」、「戸倉町誌」から抜粋

6 温泉サイクリングのすすめ

大正橋は、上田千曲長野自転車道を活用した温泉サイクリング 千曲川サイクリングコースの「温泉街ループコース」になっています。水と緑と潤いのある公園カラコロ足湯をスタート、温泉街を抜けて大正橋から対岸へ。途中、外湯も満喫しながら今回ご紹介した大正橋をゆっくりとご覧ください。



千曲川サイクリングコース

温泉サイクリング 千曲川サイクリングロードのマップは
千曲建設事務所ホームページからダウンロードできます。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/chikuken/koho/ko-susyukai.html>



■ 次回は、坂城大橋です。（掲載してある白黒写真の転載は禁止します）